

研究課題

「乳癌における EGFR リガンドの臨床的意義に関する研究」

【はじめに】

乳癌は均一の病気ではなく、非常に多様性に富んだ病気です。癌細胞の増殖や転移の仕方、薬剤の効果も大きく異なります。その仕組みを解明することは乳癌治療成績向上の上で不可欠のものです。Epidermal growth factor receptor (EGFR) というタンパク質の過剰発現、あるいは EGFR に結合するリガンドは、右の図に示すように MEK/ERK シグナル経路

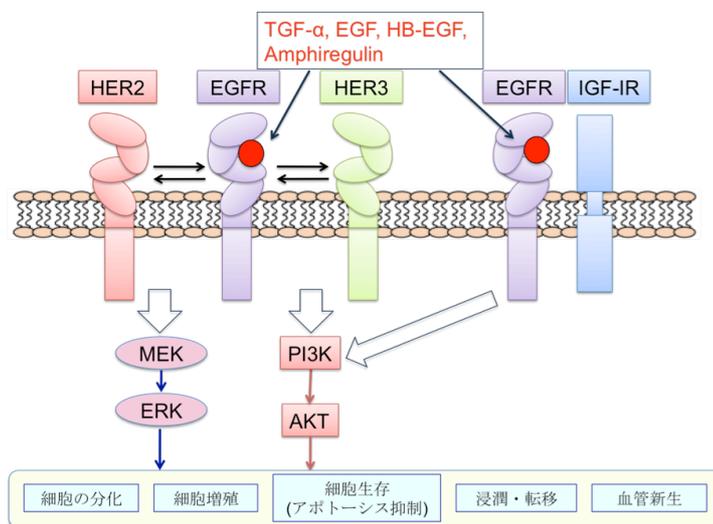


図 EGFR、EGFRリガンドとその下流のシグナル

や PI3K/Akt シグナル経路といわれるものを介して、癌細胞の生存、増殖、浸潤、転移、血管新生、抗癌剤耐性に関与することがわかっており、新たな治療標的として注目されています。

今回、私たちは乳癌においてこの EGFR リガンドの発現を調べ、乳癌の性質や予後と関連があるかどうかについて統計学的に解析し、EGFR リガンドの乳癌における意義や新たな治療標的としての可能性を探ります。

【対象】

九州大学病院消化器・総合外科（乳腺外科(2)）において 2008 年 1 月 1 日から 2011 年 12 月 31 日までに乳癌の診断で手術を受けられた方の切除標本および手術時に採取された血液のうち、約 150 名を対象に致します。

対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

【研究内容】

当科で手術において切除された切除標本および手術時に採取された血液を使って、EGFR リガンドの mRNA 発現量、蛋白発現量を定量的 RT-PCR や免疫組織化学染色、ELISA 法で調べます。この結果と患者さんの乳癌の進行度や、ホルモン受容体の発現、HER2 遺伝子の状況、乳癌のタイプなどを比較し、乳癌の性質や予後に EGFR リガンドがどう関わっているのか、考察します。

この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。

【個人情報の管理について】

個人情報漏洩を防ぐため、九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科学分野においては、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

【研究期間】

研究を行う期間は承認日より平成26年3月31日までと考えています。

【医学上の貢献】

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、将来研究成果は乳癌の増殖や転移の解明及び新しい治療法の発見の一助になり、多くの患者さんの治療と健康に貢献できる可能性が高いと考えます。

【研究機関】

九州大学大学院

消化器・総合外科学分野・教授・前原 喜彦（責任者）

九州連携臨床腫瘍学・准教授・徳永えり子

九州大学病院

消化管外科(2)・講師・森田 勝

乳腺外科(2)・医員・山下 奈真

共同研究者

福岡大学医学部産婦人科学・教授・宮本 新吾

福岡大学医学部生化学・講師・四元 房典

連絡先：〒812-8582

福岡市東区馬出 3-1-1

Tel : 092-642-6921

担当：徳永えり子